# **八天堂ファーム：与件文（事例Ⅳ・財務・会計）**売上構成・コスト高騰・在庫廃棄・投資計画といった財務論点

【企業概要】  
 C社は広島県竹原市に所在し、農産物の生産・加工・販売を行う地域商社である。理念は「良い品・良い人・良い社会づくり」であり、農業と福祉を結ぶ農福連携モデルを掲げている。主力事業はぶどう（シャインマスカット・ピオーネ）の栽培と、その加工品（ギフト商品、菓子OEM連携）である。

【売上構成】  
 直近の年間売上高は約2.8億円であり、内訳は次の通りである。

* 自社ECによる予約販売：1.2億円（構成比43%）
* 法人向けギフト販売：0.9億円（32%）
* 体験・会員プログラム：0.4億円（14%）
* 協働ブランドとのコラボ商品：0.3億円（11%）

【収益状況】  
 ここ数年は売上が増加している一方で、原材料費や人件費の上昇により粗利率は低下傾向にある。特に繁忙期における在庫管理や期限切れ廃棄による損失が増加し、売上原価率は前年比+2ptとなった。

【費用構造】  
 人件費比率は全体の28%、販売管理費比率は22%である。福祉人材や季節要員の活用により変動費化は一定程度進んでいるが、物流費や燃料費の高騰が収益を圧迫している。

【資金繰り】  
 繁忙期には仕入・人件費の先行支出が増加する一方、法人ギフトの入金は納品から2か月後となることが多く、運転資金繰りが課題である。直近の現預金残高は約0.3億円と心許ない。金融機関からの短期借入金残高は0.8億円であり、返済負担も無視できない。

【投資計画】  
 今後は冷蔵設備の更新（投資額：約0.5億円）と、加工品の生産能力増強のための小規模設備投資（約0.3億円）を計画している。社長は「欠品・廃棄を同時に減らし、利益率を改善するための投資」と位置付けているが、資金調達方法や投資効果の見極めが課題である。

【当面の課題】  
 ①原価率・廃棄率の改善による収益性向上  
 ②資金繰り安定化（運転資金管理・入金条件交渉）  
 ③投資判断の妥当性検討（冷蔵・加工設備）  
 ④成長と安定の両立を意識した財務戦略の策定

👉 この与件文は「財務・会計」に特化しているため、損益構造・資金繰り・投資案件が中心です。